

2019年度 事業者防災訓練 訓練課題対応資料

1. 2019年度訓練課題の検討結果

2019年度訓練において確認された課題を下記の4つに分類し、それぞれに対する原因分析、対策を表-1に示します。

- (1) 緊対所、現場対応 ; 緊対所の活動（防護隊、記者会見を含む）に関する項目
- (2) 戦略 ; 戦略、ERC対応に関する項目
- (3) 連携 ; 送付情報、ERC対応に関する項目
- (4) 送付情報 ; 通報、報告に対応する項目

2. ERC対応者への情報フロー図に対する自己評価

ERC対応者への情報フローについて、今回の訓練では特に大きな課題は確認されませんでした。

表-1 2019 年度総合防災訓練課題と対策

分類	項目	① 課題・原因・分析、②：対策
<p>緊対所、現場対応</p>	<p>要員待機</p>	<p>① 要員の待機要領が明確になっていませんでした。実際に事象が発生した場合に対応が長時間に及ぶ可能性があり、要員を待機させる際の要領を明確にしておく必要があります。</p> <p>② 要員の待機時の要領をマニュアル化します。また防護活動本部、防護隊長のタスクシートに要員の待機についての項目を追加し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>
	<p>記者会見時対応</p>	<p>① 記者会見時の説明者の用語の使用、動作等に一部改善するべき点がありました。</p> <p>② 記者会見を行う際の注意事項を纏めてマニュアル化し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>
	<p>負傷者介護</p>	<p>① 負傷者の介護者がいない場面がありました。事象の変化等により何らかの行動を取ることが必要となる可能性もあり、負傷の状況を考慮して介護者の要否を判断する必要があります。</p> <p>② 負傷の状況に応じて介護者を付ける等の要領をマニュアルに追加し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>
	<p>緊対所内情報共有</p>	<p>① 緊対所内の配置の見直しを行った結果、ホワイトボードの視認性、要員の動線が大幅に向上しましたが、ERC 対応者からホワイトボードに記載された情報の一部が読みにくい状況がありました。</p> <p>② 緊対所内の配置、情報共有方法の更なる見直し、改善を行います。</p>
	<p>社外電話通話</p>	<p>① FAX 送信後の電話による着信確認を行う際に、緊対所内の各種の音により通話相手の音声が聞き取りにくい状況がありました。過去の訓練で同様の課題があり、防音のためにスクリーンを設置しましたが、さらなる対策の必要性を確認することができませんでした。</p> <p>② 緊対所内での通話音声聞き取り状況の改善を図ります。</p>
	<p>緊対所保管資料</p>	<p>① 質問回答用の根拠文書が不足し、回答作成に手間取った場面がありました。</p> <p>② 今回の訓練結果を基に必要となる資料を選択し、緊対所内書架に常設します。</p>
	<p>プレス文記述</p>	<p>① 新たにプレス文作成マニュアルを作成し、周知、要素訓練を行った事によりプレス文の改善が図られましたが、住民目線での説明には更に留意すべき点がありました。</p> <p>② 今回の訓練結果を基にプレス文作成マニュアルの見直しを行い、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>
	<p>数値データ傾向把握</p>	<p>① 線量数値等の読み上げを行う際に、数値のみの読み上げとなっていたため、数値が上昇、下降、定常のいずれの傾向を示しているのかが分かりにくい場面がありました。</p> <p>② 線量数値の伝達時に数値に追加して、「上昇・下降・定常」等を追加することをマニュアル化し周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>

分類	項目	① 課題・原因・分析、②：対策
戦略	<p>書架資料</p> <p>説明シート</p> <p>事象収束戦略</p>	<p>① 書架資料の内、一部の資料について、ERC プラント班総括者が容易に取出しができない不具合がありました。また事象の説明、収束戦略検討のための資料が不足していました。</p> <p>② 書架に保管すべき資料を再検討すると共に、取り出しやすくするための工夫を行います。</p> <p>① 戦略シートとして4種類のシートを使用しましたが、各シートの使用目的、使用方法が明確になっていなかったこと、また一部のシートは事象収束のための戦略シートではないことから、説明を受ける側に混乱を生じさせる場面がありました。</p> <p>② 戦略シートについて運用の見直しを行い、マニュアル化し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p> <p>① 事象推移予測の説明が十分ではありませんでした。また周辺公衆のさらなる被ばく低減のための戦略を明確に提示できませんでした。</p> <p>事象推移予測について、発災事象の規模、程度が確認できていない時点での予測が難しく、また仮に予測を伝えられた後に事象推移が変化する可能性も考慮し、説明を行いませんでした。</p> <p>事象収束戦略について、事象の安定化、収束を中心に戦略シートを用意し、それに基づいた対応を行いました。</p> <p>② 事象推移予測について、発災状態、規模等について想定される状況を整理し、事象の推移をより具体的に予測し説明できるよう検討し、資料化することとします。</p> <p>事象収束戦略について、事故発生等の緊急時に周辺公衆の被ばくを可能な限り低減するという観点でどのような対応が可能かについて再検討し、戦略の見直しを行い、戦略シートを改訂します。</p> <p>① 施設の状況を説明するシートの記載が分かりにくい箇所があり、また、一部に誤解を与えかねない記載がありました。</p> <p>② シートの記載について誤解を招かないように記載方法を見直し、シートの改訂、記載方法のマニュアル化、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>
連携	資料提供	<p>① 訓練時にリエゾンが持参したパソコンで受信した情報を画面表示して説明させていただいた場面がありました。訓練後に確認したところ、緊対所から送付した電子メールの受信が ERC 側のパソコンよりリエゾンが持参したパソコンの方が早かった場面があったとの事でした。</p> <p>② 電子メールによる情報の伝達は有効であり、またリエゾンによる情報提供等も最大限活用して情報を効率的に提供できるよう今後も工夫します。リエゾンによる情報提供について、今回の訓練で新たに確認できた事項についてはマニュアルに追加し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>

分類	項目	① 課題・原因・分析、②：対策
連携 (つづき)	ERC 対応者	<p>① ERC 対応者が、事象の時刻を発売しなかった。情報の共有を確実にするために時刻の共有は重要となります。</p> <p>② 事象発生、推移等の説明方法についてマニュアルに追加し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>
	提供資料	<p>① 訓練中に放射線トレンドグラフを複数回送付しましたが、時刻、気象情報（風向、風速）、モニタ位置情報が記載されていませんでした。</p> <p>② 提供する資料に重要な情報を記載することは情報を正確に、また迅速に共有するうえで重要であり、今回の訓練で送付した資料の全てについて見直しを行い、定型化を行います。また事象把握、収束戦略検討を行う際に重要な資料は書架資料に追加することを検討します。</p>
	資料送信	<p>① 今回の訓練では過去の訓練に比べてかなり多くの資料を送付したこともあり、FAX 着信確認に時間遅れが生じ、また受信側に一部混乱を招きました。</p> <p>② 訓練で送信した資料の種類、規模についてはほぼ妥当と考えておりましたが、ERC との連続通話回線以外の通常電話回線を使った着信確認、発信時点での連絡方法等について検討し、より効率的な情報連携ができるように改善します。改善内容はマニュアル化し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>
	敷地鳥瞰図	<p>① 敷地鳥瞰図が周辺環境への影響範囲を説明するうえで有効であることがわかりましたが、現状では書架資料とはなっていないませんでした。</p> <p>② 敷地周辺鳥瞰図を書架資料とします。</p>
送付情報	10 条/15 条通報、 25 条報告	<p>① 所定の通報、報告様式の記載方法がマニュアル化されていなかったこと、および送信前の確認が不十分だったことにより、記載の不備、漏れがありました。</p> <p>② 所定の通報、報告様式の記載マニュアルを作成し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。また、事業者名称、場所等の予め記載出来る情報を記載した様式を常備することとします。</p>
	負傷者情報	<p>① 負傷の状況を知らせるため負傷者の写真を送付しましたが、個人情報管理の観点、また負傷の状況を知らせる情報として十分な情報があつたか、について更なる検討の必要性が確認できました。</p> <p>② どのような情報が適切か、また送付する際の情報開示基準について今後検討し、マニュアル化し、周知教育、要素訓練により習熟を図ります。</p>
	25 条報告	<p>① 25 条報告の 3 報目の表紙に「最終報」と記載しました。あくまでも今回の訓練での最終報との位置付けで記載しましたが、事象は完全に収束していない時点での報告であり、誤解を招く恐れがありました。</p> <p>② 今後は「訓練最終報」と記載することにしたと思います。</p>